Wanì light

Edition 1 / 02.2015

English

WoodyValleyパラグライダーハーネスは3年間保証付きです！！
ウッディーバレーハーネスについてカスタマー登録はがきをお送りいただいたお客様に、3年間保証をさせていただいております。

保証内容　　＊通常使用による保証期間　：　3年
　　　　　　＊クラッシュを含む使用状況を問わない保証期間　：　1年
　　　　　　　パーツ代や交換品については実費となります）
保障対象外パーツ　下記のパーツ及び部分については保証外・実費修理となります。）
　　　　　　＊ポッドハーネスのつま先部分　地面との摩耗部分
　　　　　　＊ネオプレーンゴム部分
　　　　　　＊ジッパー
　　　　　　＊超軽量ポッドハーネスX-Alpsの頭部インフレーション部分
　　　　　　＊ハーネス本体以外の部品　カラビナ・プロテクション・成形用板・フットバー・座板　等

修理に際しての往復送料については、お客様負担とさせていただきます。

㈱スポーツオーパカイト
東京：
〒101-0052東京都千代田区神田小川町3-24-15
TEL:　03-3291-0802
http://www.opa.co.jp/

メンテナンス部：〒315-0101 茨城県石岡市大増1900
〒315-0101 茨城県石岡市大増1900
TEL:　0299-44-3642　FAX:　0299-44-3939
email:　itajiki@opa.co.jp

THANK YOU！

この度はウッディーバレー社の製品をお買い上げいただき、ありがとうございます。この取扱説明書には重要な内容が記載されていますので、よく読んでください。特に最重要の 2点について御注意ください。

緊急パラシュートの装填
あなたは緊急パラシュートによって命を救われるかも知れないのです。それは 2日後に起きる事もあり得るし2年後かも知れません。いざと言うときに確実に役立つように取り扱いましょう。

ハーネスの調整
ハーネスはパラグライダーとパイロットをつなげる道具であり、フライトの楽しさと性能を最高に引き出すことのできる大切な存在です。出来の悪いハーネスでも最高の調整がなされていれば良いフライトを楽しむことが出来ます。しかしどんなに良いハーネスでも調整が悪いと飛べたものではないのです。

このハーネスによってパイロットの皆様が、快適に飛び、楽にコントロールし、性能を引き出し、フライトの喜びを存分に味わえるようになることを確信しています。取扱説明書を読むのは退屈な作業かも知れませんが、パラグライダーハーネスは身近な家電製品などとは違います。正しい使用方法を理解していただいて事故のリスクを減らしてください。この取扱説明書には、あなたのハーネスの組立、調整、飛行、収納に必要な情報が全て入っています。自分の装備について漏れのない知識を持つことによって、パイロットの安全と飛行レベルは確実に向上します。

セーフティー ノート～安全に関するお知らせ
ウッディバレー社のパラグライダー機材を購入していただくに当たって、購入者は適切なパイロット技量を認定されたパラグライダーパイロットであることを自ら認め、負傷ないし死亡を含むパラグライダー活動に伴う全ての危険性を引き受けられたものとします。ウッディバレー社のパラグライダー機材の不正確あるいは不適切な使用はこれらの危険性を高めます。いかなる場合においても、ウッディバレー社およびウッディバレー社製品取り扱い店は、ウッディバレー社のパラグライダー機材使用に関連したパイロット本人あるいは第三者の負傷、あるいはいかなるタイプの損失についても、責任を持つものではありません。ウッディバレー社のパラグライダー機材の使用に関してのお尋ねは、まずご購入先かあなたの国の輸入店までお願いいたします。

Woody Valley

危険・警告
１）　安全に正しくお使いになるために、ご使用前に必ずこの取り扱い説明書を最後までよくお読みになった上で、指示内容を守ってお使い下さい。 ２）　本ハーネスはパラグライダー専用ハーネスです。その他の目的で使用しないでください。 ３）　本ハーネスは改善等の為、予告なしに仕様・価格等を変更する場合があります。

INDEX

１． 一般情報 …… ４
１．１ コンセプト …… ４
１．２ プロテクションシステムと安全性 …… ４
１．３ ＳＯＳラベル …… ５

２． ハーネス使用の前に …… ５
２．１ 緊急パラシュート …… ５
２．１．１ 緊急パラシュートのデプロイメントバッグへの取り付け …… ５
２．１．２ 緊急パラシュートのハーネスへの取り付け …… ６
２．１．３ 緊急パラシュートの装填 …… ８
２．１．４ 適応するパラシュート …… ９
２．１．５ 緊急パラシュート開傘操作 …… ９
２．２ ハーネス調整 …… １０
２．２．１ 背中の調整 …… １０
２．２．２ 肩ベルトの調整 …… １１
２．２．３ 胸ベルトの調整 …… １１

３． ワニライトでの飛行 …… １２
３．１ プレフライトチェック …… １２
３．２ ポケット …… １２
３．３ キャメルバッグ …… １３
３．４ タンデム …… １３
３．５ 水上でのフライト …… １３
３．６ トーイング …… １３
３．７ ランディング …… １３
３．８ ハーネスの廃棄 …… １４
３．９ 自然環境における活動への注意 …… １４

４． ハーネスの収納・パラグライダーの入れ方・リュックサックの使用 …… １４
５． 特徴とオプション装備の取り付け …… １５
５．１ スピードシステムの取り付けと調整 …… １５
５．２ リラックスバー …… １５
５．３ レッグカバー …… １５
５．４ クイックリリースカラビナ …… １５
６． メンテナンスと修理 …… １６
７． テクニカルデータ …… １６

１．　一般情報

この装備に含まれるのは：

ハーネス
ポリプロピレン座板（前方は柔軟部分）
カラビナ２個
開傘ハンドル付き専用デプロイメントコンテナ
緊急パラシュートコンテナ閉鎖用バンジーループ（予備２個）

オプション：　スピードバー
リラックスバー
レッグカバー
クイックカラビナ

１．１　コンセプト

ワニライトは、ハイク&フライトのカテゴリーにおける完璧な品質の製品を目指して設計されています。最新の構造素材とシステム設計によって、Ｌサイズでわずか 2.6 kgで高性能なフルボディーハーネスを生み出しました。そして軽量化のために調整ポイントを少しだけ減らした以外は、あの優しいハンドリング特性と安定性の高度のバランスを実証した先輩ワニのベルトシステム配置を受け継いでいます。

ワニライトのリバーシブルシステムはワニと同じく、リュックサックをエアバッグから独立させてリアーコンテナポケットに内蔵しています。このシステムによって、エアバッグとリュックサックの２つの機能をそれぞれ専門に設計する事ができ、機能、見た目の美しさともに大幅な向上を達成しました。

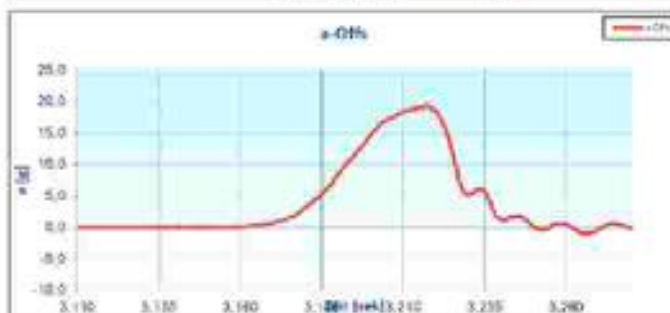
細微にいたる入念な設計によって、ワニライトはわずか 2.6 kg（Ｌサイズ）の重さで通常のハーネスと同じ機能を発揮してくれるのです。

１．２　プロテクションシステムと安全性

軽量化のためにワニライトは、ハスカやワニで使用された優秀なスプリングシステムは使用していませんが、全く新しい設計のエアバッグシステムによって従来型のエアバッグより高いパッシブ セーフティーを実現しました。
これはエアバッグの底辺に挿入たニチノール合金（高耐性の形状記憶合金）ワイヤーによって、飛行中の完全にふくらんだ状態の 60%のプロテクション性能を発揮できるからです。そして完全にふくらんだときの性能は、ワニやハスカに完全に匹敵するものです。
またインフレーションバルブも全く新しい設計によって、パイロットの脚のポジションがエアバッグ内の空気流動に影響を与える事を防ぎました。このバルブの薄い形状は衝撃時の容積変化を抑え、ハーネスの見た目もとても美しくしています。

ワニライトでは、最も軽量な足ベルト閉め忘れ防止セーフティーシステムであるゲットアップのみの設定となります。

Inspection Report	Prüfnummer b		
Article	Wani light	Weight	51,0 kg
Customer	Woody Valley	Height of Fall	1,65 cm
Testlocation - Date	13.12.2014	Protection	Airbag
Temp. C°	20,5	[illegible]	[illegible]
[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
Chart start at [g]	1,00 g	[illegible]	-0,38
Limit value [g]	50,0 g	[illegible]	1,90 %
Frequency	[illegible] Hz	[illegible]	2,623
rating unit [illegible]	1,000000 g	[illegible]	3,161
Offset [g]	0,000000 g	[illegible]	-0,0139
Measuring sensor	500 g - [illegible]	[illegible]	47,0

Results	raw	incl. MU
Maximum Acceleration g (raw data)	19,36 g	19,60 g
Intervaltime a	0,00 ms	
Intervaltime a	0,00 ms	
Intervaltime a	0,00 ms	
Freefall Time	0,538 s	

Bad Grönenbach, 15.12.2014
Location, date

EAPR GmbH

１．３　ＳＯＳラベル

赤字に白文字のとても目立つＳＯＳラベルが、右肩ベルトのパッドのポケットに入っています。このＳＯＳラベルの裏側に、事故の際に救急隊員に必要と思われるパイロットの情報を記入しておくことができます。

２．　ハーネス使用の前に

ワニライトは、そのパイロットを担当しているインストラクターなどの、認証を受けているパラグライダーの専門家によって組み立てられなければなりません。特に緊急パラシュートのハーネスへの装填は、正しく行われるよう、充分な技能と注意が要求されます。そしてハーネスの調整は、適切なパラシュートの装填を受けてから行ってください。

２．１　緊急パラシュート

緊急パラシュート収納部の最大容量は 3.8 リットルで、現行世代の軽量パラシュートのほとんどに対応しています。
そのパラシュートコンテナは座板の下にあり、装填システムは新たに改良されてよりシンプルで軽いものになっています。この新システムのために、購入時付属品のハンドル付き専用デプロイメントコンテナ以外のデプロイメントコンテナやパラシュートハンドルは使用できません。

２．１．１　緊急パラシュートのデプロイメントバッグへの取り付け

ワニライトには、ハンドル付き専用デプロイメントコンテナが付属しています。使用する緊急パラシュートをこのデプロイメントバッグの大きさに合うようにたたんで下さい。緊急パラシュートのラインはハンドルと反対側に出るようにたたみなおし、デプロイメントコンテナのフラップを閉じて下さい。

注意：

この作業も必ず、そのパイロットを担当しているインストラクターなどの、認証を受けているパラグライダーの専門家のサポートを受けてください。

２．１．２　緊急パラシュートのハーネスへの取り付け

緊急パラシュート側のブライダルをハーネス側のブライダルへ接続するには、３つの方法があります。

接続方法その１

2,400kg 以上の破壊強度を持つねじロック型のカラビナ（ラピッドリンク）を使用する方法。この場合、ブライダルに対してカラビナが回って横を向かないよう、ゴムバンドを用いて、ブライダルがずれないよう固定します。カラビナのねじロックはしっかりと締め、緩んできて開くことのないようにしてください。この方法は次に述べる方法よりも高い開傘ショックに耐え、最もお勧めできる接続方法です。

接続方法その２

まず緊急パラシュート側のブライダルの端のループの中にハーネス側のブライダルを通し、つぎに緊急パラシュート本体をこのハーネス側のブライダル端の大きなループの中にくぐらせていき、２つのブライダルを引き絞って接続する方法。開傘ショックで合成繊維製のブライダル同士で摩擦が発生して破壊しないよう、出来るだけしっかりと引き絞ってください。そのうえで、結束部が緩んでこないよう、ハーネス側のブライダルについているベルクロで結束部を縛ってください。

接続方法その３

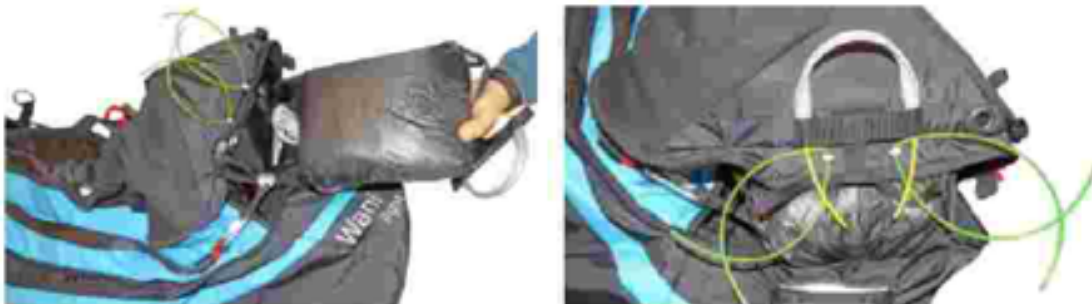
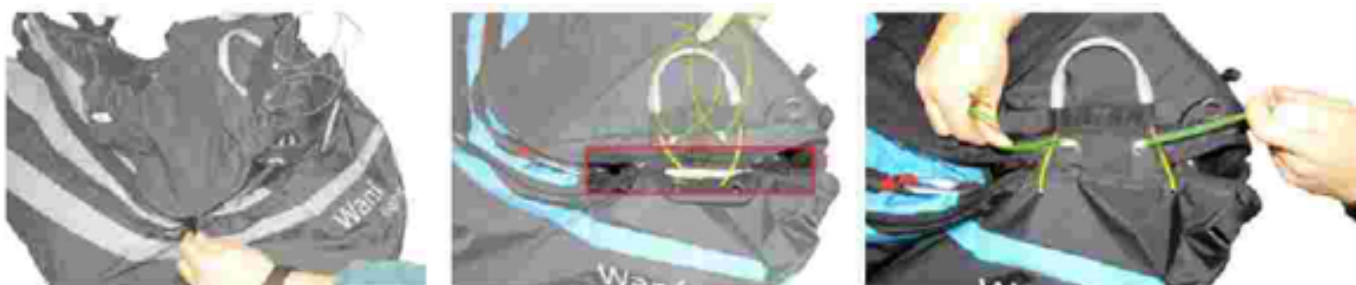
もしご使用の緊急パラシュートが操縦可能なもので２本ブライダルをもっているか、いずれにしても２本ライザーブライダルを装備しているものでしたら、肩ベルトの近くにあるハーネス側のブライダルの付根にある２つのループへ接続することが出来ます。この場合、ハーネス側のブライダルは、使用しないので、折りたたんで２本のゴムバンドで縛り、パイロットの首の後ろにあるカバーの下に収納してください。

２箇所のブライダル接続にはそれぞれ 1, 400kg 以上の破壊強度を持つねじロック型カラビナ（ラピッドリンク）を使用してください。また、緊急パラシュートのブライダルの長さが、開傘作業での緊急パラシュート引き出し時にも充分な長さを持ち、パラシュートをコンテナから引き出すさいにパラシュート本体が先にデプロイメントバッグから引き出されることがないか、をチェックすることが重要です。

注意：

横方向の異常な荷重負担を避けるため、どちらか１つのループだけでなく、ブライダルは必ず肩ベルトの２つのループへそれぞれ接続してください。また、ブライダルコンテナの中に物品を収納しないで下さい。

２．１．３　緊急パラシュートの装填

緊急パラシュートをハーネスのコンテナへ装填するさいは、引き出しハンドルが外側に向いて見えて、ハンドルの黄色いプラスティックピンが下向きになるようにしてください。
ハンドル基部左右をハーネスのスリットへ入れ、ハンドルのベルクロがハーネスのベルクロに貼り付いている事を確認してください。後の作業が楽になるように、プラスティックピン留め用の付属のバンジーループの中に細いヒモ（パラグライダーのボトムラインなど）を通しておきます。このヒモとバンジーループを取り付けられたハンドルの下にある一番小さなハトメ穴に通してください。

ブライダルカバーのジッパースライダーともう１つのコンテナの前側に来るジッパースライダーをハンドルの真下の起点へ持ってきます。ジッパーをそこから左右へ約 20ｃｍ締めて下さい。以下の写真のとおりにフラップを閉じます。この作業の際に中でジッパーが開いてこないよう注意してください。プラスティックピンをバンジーループに通したらフラップにあるカバーの中へ入れておきます。

上記の作業が終わったらもう一度、フラップの下のジッパーが正しく閉じられているか確認して下さい。
次に、バンジーループ引き出しに使った細ヒモをはずしますが、このときバンジーを摩擦で傷めないように注意深くゆっくりと引き抜いていってください。
ジッパーを端まで全て閉じます。ジッパースライダーをそれぞれのジッパーの端（左の肩ベルトの後ろと座板の前の右側）のカバーの下に入れておきます。

注意：

その緊急パラシュートとハーネスを組み合わせるのが初めての場合は、必ず公認のハーネスあるいは緊急パラシュートのディーラー、あるいはパラグライダーインストラクターによって、ちゃんと開傘することを点検してもらってください。チェックはフライトシミュレーターにぶら下がって行います。通常の飛行姿勢からの緊急パラシュートの開傘操作では、何らの支障無くスムーズに行なえなければなりません。
パラグライダー用ハーネスおよびその緊急パラシュート開傘システムは、自由落下やそのほか強い衝撃には対応していません。その負荷構造は、パラグライダーで通常に想定されている開傘ショックの基準にもとづいて設計・試験・認定されているからです。
さらにこのことは、通常の開傘ショックに対してもハーネスが全く損傷しないという事も意味していません。実際には、事故によって必要となった開傘だけでなく、安全訓練における自発的な開傘においても損傷が発生する場合があります。

２．１．４　適応するパラシュート
ワニライトの全３サイズとも、対応している緊急パラシュートの最大容積は、3.8 リットルです。

２．１．５　緊急パラシュート開傘操作
緊急時にすぐに確実にハンドルを握れるよう、普段のフライト中に定期的にパラシュートハンドルを触ってその位置を憶えておくことはとても重要です。

緊急時の開傘手順は以下の通りです。
・緊急パラシュートハンドルを見て、片手でしっかりと掴む。
・外側に向かってハンドルを引き、ハーネスコンテナから緊急パラシュートを引き出す。
・障害物のない空間を確認し、連続した動きで緊急パラシュートをパイロットおよびパラグライダーから離れた方向へ投げる。
・緊急パラシュートが開いたら、機体をつぶしてパラシュートに絡まないようにするために、少なくとも１本のＤライン、あるいはブレークラインを掴んでパラグライダーを引き込む。
・着地時には、負傷のリスクを出来るだけ減らすために、体を起こしておき、ＰＬＦ（５点接地パラシュートランディングフォール）が行なえるようにする。

２．２　ハーネス調整

ワニライトには背板・胸ベルト・肩ベルトの調整が設定されていて、個々のパイロットに最適のポジションに調整できるようになっています。この調整にはそれほど多くの時間はかかりませんが、フライト中の快適さは大きく変わってきます。

ワニライトは出荷時に標準的な体型の調整がすでに施されていますが、パイロットの身長へ対応する調整はできておりません。そこで、初飛行の前に他の調整はそのままで高さの調整だけを行う事をお勧めします。他の調整についてはほとんどのパイロットにとって満足できるものである事がわかっています。
なお、全ての調整ベルトに赤い印が付けられていて、これら他の調整を行う際に、いつでもメーカー設定値に戻せるようになっています。

調整作業は、必ず緊急パラシュートを装填してから行なってください。そして、最適の調整を得るためには、適切なシミュレーターからぶら下がり、飛行時と同じ装備・収納品を再現して飛行時と同じ条件・ポジションでチェックしてください。

背板調整	①	２．２．１参照
肩ベルト調整	②	２．２．２参照
胸ベルト調整	③	２．２．３参照

２．２．１　背中の角度調整

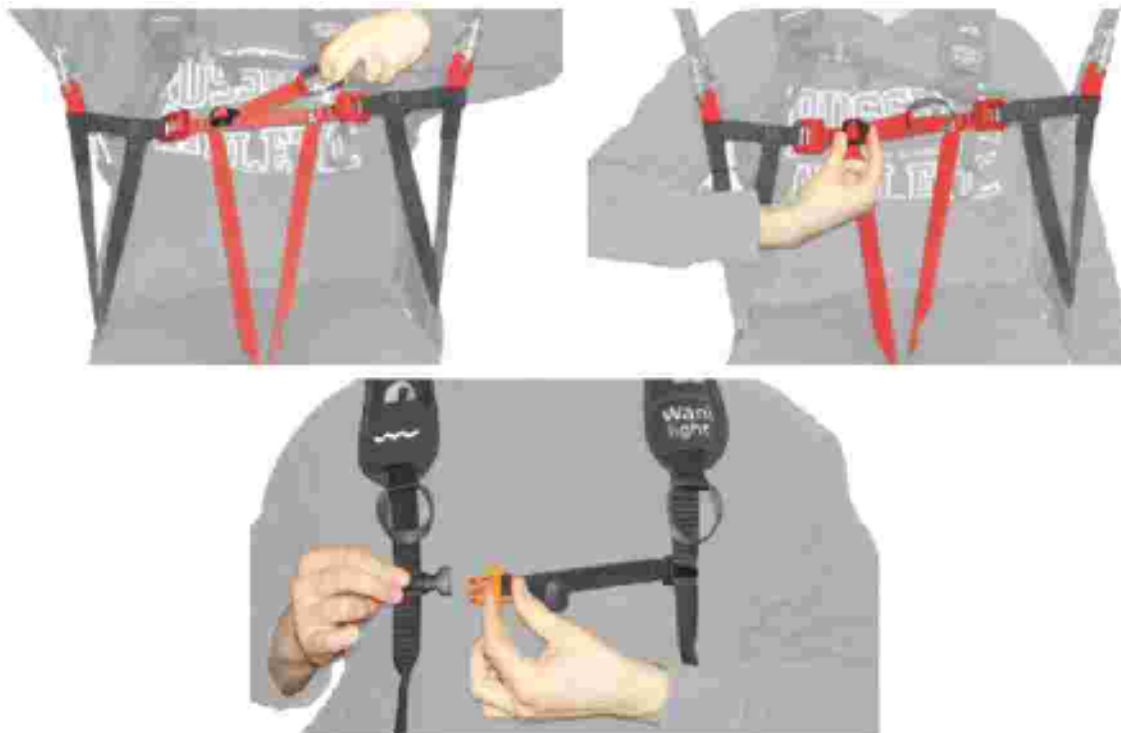
背板の角度調整で、飛行中のパイロットの上体がどれくらい後傾するかが設定できます。

２．２．２　肩ベルトの調整

肩ベルト調整によってハーネスをパイロットの身長に合わせていきます。この調整バックルは下の方の、座板の後端近くにあります。肩ベルトはパイロット上体の重さの一部も支え、居住性に寄与しています。背板と座板の調整を行ったら、この肩ベルトの調整を行い、肩ベルトがパイロットの肩へピッタリ当たっていて、あたり方が強過ぎたり緩過ぎたりしないようにしてください。

２．２．３　胸ベルトの調整

胸ベルトで２つのカラビナ間の距離を調整します。調整幅はこのマニュアルの末尾に掲載されているテクニカルデータをご参照下さい。。ワニライトでの初飛行の際は胸ベルトを一番短めにしておく事をお勧めします。そしてフライト中を少しずつ調整して好みのポジションを探してください。胸ストラップが短くきついほど安定性が高くなります。カラビナ間の距離を広げ過ぎてもパラグライダーの操作性は向上しません。また、狭くし過ぎた場合、非対称つぶれからのツイスト傾向を悪化させる恐れがあります。

肩ベルトの端には小さなクリップが付いた伸縮ベルトがあり、離陸走行時に肩ベルトがパイロットの肩から外れるのを防げます。またベルトの接続クリップが、緊急時に役立つ便利なホイッスルになっています。

注意:

全ての調整は必ず左右均等に行ってください。

３．　ワニライトでの飛行

３．１　プレフライトチェック

安全性を最大限確保するために、プレフライトチェックは完全で漏れのない手順で、毎回フライトごとに行なってください。

・全てのバックルが正しく閉まっているか。氷や雪などの障害物が挟まっていないか。必ず氷や雪を拭ってからバックルを閉めること。
・緊急パラシュートのハンドルが正しい位置にあり、セーフティーピンがしっかりと差し込まれているか。
・ポケットやジッパーが開いていないか。
・パラグライダーがハーネスに正しく接続されているか。２個のカラビナが本来のロックシステムどおりに正しくロックされ閉じているか。
・スピードバーがパラグライダーに正しく取り付けられているか。

３．２　ポケット

ハーネス状態のワニライトには大容量の背中コンテナがあり、輸送時のバックパック部が収納できるほか、衣類や給水キャメルバッグも収納できます。さらに両サイドにセーフティーループ付の柔軟メッシュ素材でできたポケットがあります。

リュックサック状態でのワニライトには、右側に柔軟ライクラ素材のサイドポケットがあり、その上部にはゴムベルトが付いていて伸縮式のストックの収納に役立ちます。左側には、リュックサックを背負った状態でも手が届く便利なボトルホルダーがあります。さらにバッグの頂部には小さなジッパー付ポケットがあるほか、衣類など色々なアイテムを外付けしておくのに役立つバンジーロープが付いています。

３．３　キャメルバッグ
ワニライトはハーネス状態でもバックパック状態でも、給水キャメルバッグ装備の機構を持っています。

ハーネス状態では、背中コンテナの中の専用コンテナポケットにキャメルバッグを入れ、背中コンテナの上部左側に開口している樹脂の星型穴から給水ホースを出し、写真のように左肩ベルトの２箇所のゴムベルトの下を通してください。

バックパック状態では、給水キャメルバッグをバックパックの中へ入れておいて、左右の肩ベルト上端の間にある専用の取り出し口からホースを出してください。

３．４　タンデム
ワニライトは、タンデムフライトのパッセンジャー用に使用することができます。

３．５　水上でのフライト
水上でのフライトに関して、ワニライトで特に問題となる点はありませんが、いずれにしても着水は常に危険である事に違いはありません。水上を飛ぶ可能性がある場合は、適切なライフジャケットを使用してください。

３．６　トーイング
ワニライトはトーイングでの離陸に用いる事が出来ます。トーイングブライダルのリリースは必ず、カラビナに直接かけてカラビナの開閉ゲートがリリースとは逆の後ろ側を向いているようにしてください。詳細はトーイングリリース機材に付属の説明書を読むか各人のフライトエリアにいるトーイングの資格を持ったインストラクターにお聞きください。

３．７　ランディング
ランディングの前に座板から足をずらせて出して立ち上がり、スタンディング ポジションをとっておきます。決して座った姿勢では着陸しないで下さい。高レベルのパッシブ プロテクションとなるエアバッグ バック プロテクションを装備しているとは言え、これはパイロットの背骨にとってとても危険なことです。ランディング前に確実にスタンディング ポジションをとっておくことは、アクティブ セーフティーの事前準備であり、事故が発生してからの受身のパッシブ プロテクションに比べてはるかに有効です。

３．８　ハーネスの廃棄

パラグライダーハーネスに使用されている素材には、正しい廃棄方法が求められています。一般ゴミとして廃棄する代わりにメーカーまでお戻しください。メーカー側で正しい廃棄処分を行います。

３．９　自然環境における活動への注意

スカイスポーツ活動において環境に配慮しましょう。勝手に許可されていない場所に立ち入ったり、ゴミで自然を汚したり、騒音を出したりしないよう、注意しましょう。

４．　ハーネスの収納・パラグライダーの入れ方・リュックサックの使用

ハーネス状態からバックパック状態への変換は、まず背中コンテナのジッパーを完全に開き、背中コンテナ内にあるバックパック部分を大きく広げます。全体を上下逆にひっくり返し、座板をハーネスの背中部分へ向かって折りたたみ、その間にベルト類やバックル類を挟んでおきます。たたんであるパラグライダーをハーネスのエアバッグ部の上へ乗せます。

ハーネスの背中コンテナのカバー部分をパラグライダーの上へ引き出してから、バックパックコンテナのジッパーを閉じていきます。パラグライダーやバックパック本体の中の空気を抜くように軽く押していくとジッパーが楽に閉められます。

バックパックコンテナ上部には、ヘルメットや計器、衣類などなどの充分な収納スペースが残るはずです。

バックパック状態からハーネス状態への変換も、ちょうどこの逆の手順で行い、バックパックコンテナ部がハーネスの背中コンテナ内に入るようにしてさい。

５．　特徴とオプション装備の取り付け

５．１　スピードシステムの取り付けと調整

アクセレーターの調整は、ハーネスを最適なシッティングポジションに調整できてから行ないます。このハーネスは通常タイプのスピードシステムアクセレーターなら全て装着可能です。
座板の前にはスピードバーを保持するゴムヒモがあり、緊急パラシュート開傘時に緊急パラシュートハンドルがスピードシステムに絡むのを防いでいます。スピードバーのラインはまず座板の前のゴムヒモに付いているリングの中を通し、座板の前の角の近くにあるハトメ穴からハーネスの中に入り、そこから座板の後ろの角の近くにあるプーリーを通って上へ伸ばしておきます。スピードバーの調整を正確に行うには、シミュレーターにぶら下がってパラグライダーのライザーを接続し、他の人にライザーを持ち上げてもらって、スピードバーのラインの長さを調整してください。足を離したときにフットレストがハーネス前部の下１０ｃm以内にくるようにしてください。ヒモを短くし過ぎるとスピードシステムが常に引かれた状態になり、意図しないで飛行中に常にスピードシステムが作動してしまう恐れがあります。はじめのフライトではスピードバーをやや長めにしておいてフライトごとに少しずつ短くしていくのが安全です。また、調整の際は、左右均等に行うよう注意してください。
テイクオフで走る際にスピードバーを留めておくことができるよう、座板の前に磁石で閉じるベルトが付いています。このベルトはセンターロープの調整にも役立ちます。

５．２　リラックスバー

すでに装着されているタイプ以外にも、全てのウッディーバレー社製ハーネスにリラックスバーを後付け装備することが出来ます。リラックスバーがあれば、パイロットは脚を伸ばした状態で足をサポートに乗せてくつろぐことが出来ます。この飛行姿勢は昔からの脚を垂らしておく姿勢よりもずっと楽と思うパイロットも多いです。リラックスバーの取付けは、リラックスバー付属の取り扱い説明書をご覧下さい。

５．３　レッグカバー

レッグカバーは比類ない快適性をもたらしてくれる、ウッディーバレー社が独自に開発した製品です。専用の防水透湿生地製のカバーが寒さをしっかり防ぎ、空気抵抗の低減にも役立ちます。レッグカバーの取付けは、レッグカバー付属の取り扱い説明書をご覧下さい。

５．４　クイックリリースカラビナ

ワニライトはクイックリリースカラビナを使用することが出来ます。正しい取り付け方については、クイックリリースカラビナ付属の使用説明書を参照してください。

6. メンテナンスと修理

衝撃が加わったとき、着陸あるいは離陸に失敗したとき、あるいは損傷や顕著な消耗が見受けられたときは、ハーネスを点検してください。また、ハーネスは２年に１度、販売者に点検してもらうことと、２年に１度メインカラビナを交換することをお勧めします。
ハーネスの不要な損耗･劣化を防ぐために、地面や石、ザラザラした場所でハーネスを引きずる事は極力避けてください。本来のフライト活動以外に紫外線（直射日光）が不必要に当たらないようにしてください。できるだけ湿気や高温からハーネスを守ってあげてください。
パラグライダー機材は、涼しく乾燥した場所で保管し、濡れたり湿気を含んだままで放置しないで下さい。ハーネスはできるだけキレイに保ち、定期的にプラスティックブラシや絞った雑巾で土を落として下さい。汚れがひどい場合は、中性洗剤と水で洗い、直射日光を避けて風通しの良い場所で自然乾燥させて下さい。ジッパーは常に清潔に保ち、定期的に乾式シリコンスプレーで潤滑を保ってください。
もし緊急パラシュートが濡れた場合（着水など）は、必ずハーネスから取り出して乾燥させ、リパックしてからハーネスコンテナに収納しなおしてください。
ハーネスの修理や部品交換は、パイロットが行ってはならず、ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家のみが作業いたします。ウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家だけが、認定どおりの製品の正しい機能を保つことの出来る素材と技術を持っているのです。
メンテナンス作業の要望でウッディーバレー社またはウッディーバレー社が認定した専門家へご連絡、発送いただく場合は、リアポケット内の銀色のラベルに記載されている識別番号を全桁、お知らせください。
高性能で軽量なハーネスを実現するために、ワニライトでは高級な素材を使用していますが、標準的なハーネスよりも軽量な素材を使用していますので、ワニライトの使用・収納の際は、常に細心の注意をお願いいたします。正しい使用によってハーネスは長持ちします。

皆様が、ワニライトによって素晴らしいフライトを楽しまれることを願います！

7. テクニカルデータ

座板からカラビナまでの距離	Size M 43 cm - Size L: 45 cm - Size XL: 47 cm
カラビナ間の距離	Size M 39.5-49.5 cm - Size L: 41-53 cm - Size XL: 41-56cm
ポリプロピレン製座板のサイズ M)	33 x 30 x 34 cm
ポリプロピレン製座板のサイズ L)	35 x 32 x 36,5 cm
ポリプロピレン製座板のサイズ XL)	37 x 34 x 39 cm
カラビナ、パラシュートハンドル含む本体重量	Size M 2.5 Kg - Size L: 2.6 Kg - Size XL: 2.9 Kg
プロテクション形式	エアバッグ
脚ベルト方式	Get-up
緊急パラシュートコンテナ	座板の下に側方開放型コンテナ
荷重限界	120 daN

この取扱説明書に記載の内容には万全の正確を期していますが、記載内容はあくまで参考である事を御理解ください。この取扱説明書は予告なく変更されるものです。
ワニライトの最新の情報は、ウッディーバレー社のホームページ http://www.woodyvalley.com
あるいは、㈱スポーツオーパカイトのホームページ http://www.opa.co.jp
でチェックして下さい。

Latest update: May 2015